

I 事業計画

基本方針

当財団は、「各種の文化振興事業を行うことにより個性豊かな県民文化の振興を図り、もって国際性豊かな文化の県づくりに寄与する」ことを目的として、次の事業を実施する。

また、公益法人として公益的事業を引き続き遂行するとともに、公益認定基準を遵守し、かつ健全で責任ある経営に努めるものとする。

平成30年度は、様々な芸術公演を県民に提供するとともに、文化芸術の担い手を育成するほか、県民の文化活動の拠点である「茨城県立県民文化センター」の管理運営、子どもから大人まで楽しみながら学ぶ海の総合ミュージアムである「アクアワールド茨城県大洗水族館」の運営を行い、県民から愛され、親しまれる施設運営と事業展開に努める。

(1) 文化振興事業

自主事業に加え、本県文化芸術のさらなる活性化や優れた文化芸術に触れる機会を県民に提供することを目的とする県の委託事業を併せて実施する。

(2) 茨城県立県民文化センター

第3期指定管理期間（平成28年4月1日から平成33年3月31日までの5年間）の3年目として、施設の適切な管理運営を引き続き行っていく。

(3) アクアワールド茨城県大洗水族館

有料入場者年間100万人を安定的に確保するため、圏央道をはじめとする広域的な道路整備により今後更なる集客が期待できる首都圏での誘客促進活動を継続するとともに、より一層の展示・企画等の充実やサービスの提供に努める。

(4) 財団全体の施設年間利用者目標数

約175万人（県民文化センター利用者数60.3万人、アクアワールド茨城県大洗水族館総入場者数114.4万人）

1 法人運営事業

(1) 事務局の運営

県から指定管理を受けた茨城県立県民文化センターの管理運営、財団自らが運営するアクアワールド茨城県大洗水族館の運営及びこれらに必要な付帯事業について、各事業所の意見を集約し調整を図り、県との連携のもと、業務の進行管理及び事務事業執行についての指導を行う。また、次の事業を行う。

ア 理事会及び評議員会の開催をはじめ、財団の事業計画及び予算等理事会議案の策定

イ 第4期中期経営計画の進行管理及び進捗状況を検証するとともに、計画達成に向けた対策

ウ 職員の資質向上を図るため、階層別研修や各種セミナー等を積極的に活用し、必要な知識や技術の習得に努める。また、全職員を対象にストレスチェックを実施し、メンタルヘルスケア体制の充実を図る。

2 公益目的事業1（文化振興事業）

（1）自主公演事業（主催公演9事業、共催公演15事業、計24事業）

自主公演事業を「普及」「参加創造」「鑑賞」の3つに区分し、目的・テーマ別に公演を企画・実施することで県民各層の要望に適切に対応するとともに、地域文化の担い手を育成し、県民の文化意識のより一層の高揚を図る。

ア 普及事業（3事業）

本県の有望な若手演奏家に発表の機会を提供し、音楽文化の向上を図ることを目的とした「第44回茨城県新人演奏会」を開催する。

また、歌舞伎とオペラ公演に合わせて演目や見所等を事前に紹介する講座「楽しむ会」を開催し、新規鑑賞者の開拓とリピーターの確保に努める。

イ 参加創造事業（4事業）

県内高等学校吹奏楽部4団体と世界有数の金管合奏団「ベルギー金管アンサンブル」による演奏会を開催し、プロの演奏家との共演・交流をとおして、音楽の魅力や楽しさを広く伝え本県の文化水準の向上に寄与する。

また、新進演奏家支援・育成事業に「新人演奏会受賞者コンサート」を新規で開催し、新進演奏家の演奏機会の確保を図り、更なる支援・育成に努める。

ウ 鑑賞事業（17事業）

県民要望に沿った多種多様なジャンルの舞台公演に接する機会を提供するため、「キエフ・クラシック・バレエ」、「恐竜どうぶつ園」、「ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団」等を民間プロモーターと連携を図り実施する。

また、「松竹大歌舞伎」を開催し、日本の優れた伝統芸能の魅力を伝えるとともに、県内の公立文化施設と連携を図った鑑賞ツアーの実施や、学生を対象に料金設定や座席割等を工夫するなど、鑑賞しやすい環境を整備し入場者の確保に努める。

（公演計画）

		月 日	公演名	会 場
普及	主催	7月28日（土）	舞台公演をより楽しむ会「歌舞伎」	県文小ホール
		9月30日（日）	第44回茨城県新人演奏会	県文大ホール
		10月17日（水）	舞台公演をより楽しむ会「オペラ」	県文小ホール
	計3事業（主催3事業）			

参加創造	主催	6月17日(日)	地域音楽活性化事業 ブラスフェスティバル2018 「ベルギー金管アンサンブル+MISO」	県文大ホール
		11月18日(日)	新進演奏家支援・育成事業 「新人演奏会受賞者コンサート」	常陽藝文センター
		1月19日(土)	新進演奏家支援・育成事業 「ミュージック・カフェVol.4」	県文小ホール
		3月16日(土)	新進演奏家支援・育成事業 「新人演奏会歴代受賞者コンサート」	県文小ホール
	計4事業(4事業)			
鑑賞	主催	7月28日(土)	松竹大歌舞伎	県文大ホール
		12月1日(土)	笑撃!江戸前落語	県文小ホール
	共催	4月6日(金)	風華国楽・北京民族楽団	県文大ホール
		5月27日(日)	miwa acoustic live tour 2018	県文大ホール
		6月9日(土)	財津和夫2018concert with 姫野達也	県文大ホール
		7月7日(土)	ビリー・ヴォーン・オーケストラ	県文大ホール
		7月16日(月)	キエフ・クラシック・バレエ 「眠れる森の美女」(2回)	県文大ホール
		8月4日(土)	恐竜どうぶつ園(2回)	県文大ホール
		9月1日(土)	「ドラゴンクエスト」 ウィンドオーケストラ・コンサート	県文大ホール
		9月13日(木)	フォレスタ・コンサート	県文大ホール
		9月17日(月)	平原綾香コンサート	県文大ホール
		12月16日(日)	高嶋ちさ子12人のヴァイオリニスト	県文大ホール
		1月12日(土)	ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団	県文大ホール
		1月13日(日)	民音タンゴ・シリーズ<50>ドラマチック・タンゴ	県文大ホール
		2月9日(土)	チェコ国立ブルノ・フィルハーモニー管弦楽団	県文大ホール
		2月24日(日)	米村でんじろうサイエンスショー(2回)	県文大ホール
		3月21日(木)	米米CLUBコンサート	県文大ホール
計17事業(主催2事業・共催15事業)				
合計24事業(主催9事業・共催15事業)				

※ 会場欄の「県文」は県民文化センターの略。

(2) 受託事業（8事業）

ア 文化芸術創造・発信事業（4事業）

本格的で質の高い海外の舞台芸術に接する機会を提供するため、「ブルガリア国立歌劇場」によるオペラ「カルメン」を上演する。

また、新人演奏会出身等の新進演奏家とプロの管弦楽団メンバーで楽団を編成し、クラシック音楽の魅力を伝えるコンサートを無料で開催し、新進演奏家の支援・育成に努める。

このほか、トップクラスの文化芸術に触れる機会を提供する講座「子ども文化芸術大学」を、文化プログラム推進事業から県内の児童・生徒を対象に音楽・美術・伝統文化の文化芸術に触れる文化芸術体験出前講座に移行し内容を充実させ、更なる子どもたちの豊かな感性や創造性の育成に努める。

イ 文化プログラム推進事業（4事業）

2020年の「東京オリンピック・パラリンピック」に向け、茨城ならではの文化プログラムを推進するために昨年度採択した3事業（「リボン・アートボール」、「茨城の民話を味わおう」、「音楽劇・櫻川」）を文化オリンピック認定事業として実施する。また、更なる県内各地の文化振興を図るため、平成30年度も引き続き文化活動の企画を公募（一般、学生に2部門）するなど文化プログラムの拡充を図り、本県の魅力をさらに国内外に発信するよう努める。

(受託事業計画)

文化芸術創造・発信事業

月 日	事業名	会 場
8月25日(土)	みんなで楽しむオーケストラ	牛久市中央生涯学習センター
8月26日(日)		坂東市民音楽ホール
10月17日(水)	ブルガリア国立歌劇場「カルメン」	県文大ホール
3月23日(土)	茨城国際音楽アカデミーinかさま水戸公演	県文
通 年	文化芸術体験出前講座 ・音楽/美術/伝統文化(80校) ・子ども文化芸術大学(8校)	県内小中高等学校
計(4事業)		

文化プログラム推進事業

月 日	事業名	会 場
通 年	県民企画公募型事業 ・平成29年度採択事業の実施(3事業) ・文化活動事業の企画公募(1事業)	—
計(4事業)		

(3) 文化芸術活動への助成

文化活動を行う団体等に対して事業費の一部を助成し、県民の自主的・個性的な文化活動を支援奨励する。

事 項	内 容
助成件数	36事業
助成予定額	12,486千円

(4) 市町村文化施設及び地元演奏家等への支援

県内の文化団体・演奏家の活動に対し後援を行うとともに、広報やマネジメント等で支援に努める。

(5) 県民文化センター指定管理事業

ア 施設の利用促進及びサービスの向上

県民文化センター指定管理者として、県民の文化活動等の場として県民に広く利用されるよう努めるとともに、施設の安全性・快適性を確保する。

県民文化センター利用者数603千人、利用料金収入104,295千円を目標とする。

(ア) 施設利用計画

事 項	利用者数	利用日数	利用料金収入	利用率
大ホール	255,700人	262日	61,943,109円	82.9%
小ホール	73,000人	256日	12,386,106円	76.1%
集会室(6室)	94,700人	332日	6,742,350円	95.3%
分館集会室	40,100人	315日	11,031,279円	89.5%
和室	4,000人	171日	1,395,940円	49.2%
一般展示室	69,400人	283日	6,099,000円	82.7%
県民ギャラリー	63,700人	246日	4,271,190円	71.9%
練習室	2,400人	120日	426,480円	33.9%
計	603,000人	1,985日	104,295,454円	72.5%

※ 利用率は、利用可能日に対する利用日数の割合。

(イ) 1月限定割引による利用促進

閑散期の利用促進を図るため、1月限定の施設利用料金割引を継続して実施し、ホームページを中心とした情報発信により当割引について周知する(大ホール・小ホール・一般展示室・県民ギャラリー・和室の施設使用料の50%割引)。

(ウ) 新規利用者(団体等)の誘致及びリピーターの確保

催事及び施設の空き情報等の最新情報の更新、利用団体へのダイレクトメールの発送

などにより利用促進を図る。

なお、近隣市町村の文化施設等及び関係各団体等へ「催し物ご案内」（情報誌）を配布し、来館者の確保に努める。

(エ) 各団体との連携強化

関係団体等との連携を強化し、利用促進に努める。

- ・ 茨城文化団体連合など各文化団体等との連携強化。
- ・ 茨城県公立文化施設協議会及び全国公立文化施設協会との連携による加盟施設間との情報共有。
- ・ 県民文化センター友の会との連携によるチケット販売促進及び会員の利用促進。
- ・ 茨城県及び水戸市観光協会等の各関係団体との連携による全国規模や地域ブロック規模の大会等の誘致及び利用促進。

(オ) サービスの向上

会場受付及びチケット販売業務の平日の営業時間を適宜延長し、利用者へのサービス向上を図る。

また、利用者と主催者双方を対象とする利用満足度調査（アンケート調査）を随時実施し、利用者の要望等を分析するとともに、改善が可能な案件については速やかな対応に努めるほか、要望及び対応についてホームページに公開する。

(カ) 練習室の貸出開始

4月1日より貸出を開始する練習室について、平成30年度の利用日数を120日、利用率を33.9%と見込む。更に利用率を上げるため、ホームページや「催し物ご案内」等を利用した周知を図る。

(練習室の利用料金)

区 分	利用料金
午前（9時～12時）	1,330円
午後（13時～17時）	1,930円
夜間（18時～22時）	2,070円
超過料金（1時間あたり）	510円

- ・ 面 積：39.14㎡（延べ床：46.53㎡）
- ・ 定 員：20名
- ・ 付属設備：鏡（壁の一面のみ）・多目的トイレ・洗面台

(キ) 県民文化センター友の会の運営

現在、2千人以上の会員数を擁する県民文化センター友の会は、県民文化センター事業及び県民の文化水準の向上に大きく寄与していることから、チケット割引事業をはじめ、観劇会や研修旅行の開催等、会員の確保及びサービスの充実を図る。

(ク) ワンコインコンサートの開催

500円という入場料金設定により、気軽に身近に生の音楽演奏に親しむことを目的としたコンサートを開催する（年6回）。

平成30年度はアンケートで要望が多いジャズ演奏を2回開催するなど、来場者のニーズに合わせて実施する一方で、ホームページや動画サイトを活用した広報等を実施し、新たな客層の発掘に努めるとともに、県内出身の若手演奏家を出演者に起用し発表の機会及び演奏経験の場の提供を図る。

(実施計画)

開催回	開催日	内容及び出演者
第22回	4月21日（日）	ジャズアレンジによる尺八&ピアノ演奏 出演者・小林鈴勘（尺八） ・若井優也（ピアノ）
第23回	7月29日（日）	ジャズ演奏 出演者・遠藤さや（ジャズボーカル） ・他1名
第24回	8月30日（木）	マリンバ演奏 出演者・高野綾
第25回	11月10日（土）	ヴァイオリン演奏 出演者・調整中
第26回	12月22日（土）	声楽 出演者・調整中
第27回	3月予定	ピアノソロ 出演者・今井美佳（ピアノ）

(ケ) スタインウェイを体感しようの開催

県民文化センターが管理するスタインウェイ社製のフルコンサートピアノの有効活用を目的として、希望者に演奏する機会を提供する（年7回）。また、大ホールの空き日に開催することで施設の利用促進を図る。

(実施計画)

開催回	開催日
第22回	4月21日（土）
第23回	5月予定
第24回	8月予定
第25回	12月予定
第26回	1月予定
第27回	2月予定
第28回	3月予定

イ 安全・安心で快適な施設づくり

(ア) 施設整備計画

施設の長寿命化を図るため、県と協議のうえ修繕計画を策定し計画的な修繕を実施する。また、危険箇所の早期発見及び事故の未然防止に努め、緊急性の高い修繕箇所については優先的にかつ迅速に修繕を実施する。

また、平成30年度は、小ホール前ピロティ照明器具更新工事、集会室1～4号室照明器具LED化工事のほか、県工事としてスプリンクラーアラーム弁改修工事、自動火災報知器・ガス警報及び非常放送設備改修工事等を実施する。

なお、30年度の施設維持・管理に係る基本的考え方は、次のとおりとする。

- a 満足度調査結果を利用者の声としてとらえ、優先して不具合等の解消に努める。
- b 環境への配慮に努め、省エネルギーの推進、ゴミの分別化や削減等に取り組むほか、借楽園公園に隣接する施設として環境美化に努め、適正管理を行う。
- c 障害を持たれた方や高齢の方々が来館した際には、利用者目線に立った親切で丁寧な案内誘導を行い、施設を快適に利用できるよう努める。

また、催し物に合わせた障害者専用駐車場の臨時増設や案内誘導板の改善など、より利用しやすい施設となるよう取り組む。

(イ) 危機管理対策

東日本大震災で得た教訓を活かし、火災訓練のほか、大規模地震を想定した避難訓練等を実施し利用者の安全確保に努める。また、危機管理対応マニュアルの見直しを常時行うとともに、災害発生時に迅速かつ安全に行動が出来るよう、職員をはじめ委託業者及び入居団体職員等関係者への周知を徹底する。

- ・ 避難訓練の実施（年2回実施。火災及び大規模地震を想定）
- ・ 危機管理対応マニュアルの常時見直し
- ・ AED（自動体外式除細動器）の管理及び操作方法習得の徹底
- ・ 火災、Jアラート及び地震発生時の対応のほか、不審者への対応、風水害・傷病等の対応
- ・ 大ホール催事等開催時の緊急事態への迅速な対応をするため、必要に応じて別途警備員を1名以上配置
- ・ 関係各団体との連絡体系の整備

(ウ) その他

県立県民文化センター近隣の地域住民の方々との共生の観点から、イルミネーション事業について復活を検討する。

3 収益事業1（県民文化センター自主事業）

(1) グリル事業

グリル・売店事業にあっては、毎年大きな赤字を計上していることを踏まえ、その効果的

な縮減策について検討するとともに、文化センター利用者の利便施設としての役割を踏まえ、その在り方について根本的な検討を加えることが必要な時期に来ていることを認識し、対応を検討していく。

(2) 駐車場事業

県民文化センターをはじめ、千波公園や茨城県近代美術館に訪れる県民がより安全で快適に利用できるよう、県から管理許可を受けている千波公園・県民文化センター前駐車場について、適切な管理運営に努める。また、駐車場管理業務の簡素化を目的として、駐車料金自動徴収機の設置について検討に入る。

・総利用台数 143,600台

4 公益目的事業2（水族館事業）

(1) 水族館の運営

水族館は、基本テーマである「茨城の海と自然・世界の海と地球環境」に沿って、地域の自然と世界の水生生物の生態環境をとおして、生物の多様性や自然環境、地球環境について楽しみながら学ぶという、教育と娯楽性を兼ね備えた施設として運営する。

また、水族館が本来持っている[展示][普及][研究]の3つの機能を相互に連動させ、魅力ある海の総合ミュージアムとして次の機能を持たせた施設として運営する。

ア 「驚き・不思議・発見・楽しさ・やすらぎ」のアミューズメント（娯楽）要素を持った観光レクリエーション施設

イ 地域の文化と経済に貢献する拠点施設

ウ 海をとおした環境教育の場としての生涯学習施設

エ 自然保護と種の保存に関する実践・研究施設

オ 入場者計画 総入場者数 1,144,000人

平成30年度は、さらなる飛躍を目指し、入場者の安定確保を図るため、季節毎の様々な事業や生物展示の情報から「大洗水族館の魅力発信」を積極的に行っていく。

最重点地域である茨城県と栃木県、千葉県北部と埼玉県はもとより、重点地域である福島県、群馬県に対し、積極的な広報を行うほか、重点地域に匹敵する東京都東部にも情報発信を行っていく。

また、修繕計画に基づく施設整備については、緊急性のあるものから実施するなど、資金の有効な活用を図るとともに安全な施設管理に努め、採算性の視点に立った効率的な予算執行を行う。

(2) 飼育展示事業

基本テーマに基づき生物の収集を行い、「見て、触れて、遊びながら楽しく学べる」展示の充実に努めるとともに、飼育生物や県内外に棲息する水生生物について調査・研究を行い、

それらをとおして自然環境保護の啓発活動を行うことで、環境保全の基幹施設としての役割を担う。

ア 魚類展示

飼育生物の展示・飼育・繁殖研究を行い、生物固有の様々な情報を数多く発信することで常に新鮮な話題を来館者に提供する。特に、インド洋水槽を「スズメダイの海（仮）」に展示を更新し、熱帯系魚類の展示を充実させ誘客促進を図る。

その他の水槽についても展示更新に努め、ミニ企画展や館外イベント展示などを積極的に行い、広報活動と連携させ新規来館者の獲得を図る。

生物収集では、サメ類・クラゲ類・その他の魚類など、漁業者や、水産試験場との連携を強化し、幅広い生物相の収集に努め、バリエーションに富んだ展示を目指す。また、新たな温帯系生物、深海性生物の供給地として高知県室戸市において重点的に収集活動を行い、新規展示生物の開拓に向けて搬入ルートや蓄養方法を確立する。

調査研究では、県内沿岸に來遊するサメ、マンボウ、ウミガメ類の生態調査及び県内に生息する魚類・無脊椎動物の定性調査を行い、それらを展示に供し、県内に生息する生物の多様な生態を解説に加えることで、自然保護への理解を深める啓発にも努める。

また、各研究機関との共同研究を積極的に行い、それぞれの分野における最先端の情報を公表することで研究施設としての役割を担う。

サメ類の槽内繁殖においては、卵生種はもとより、胎生種でも繁殖を目指し、さらに、サメ類以外の硬骨魚においても繁殖技術を向上させ繁殖賞を目指す。

イ 海獣展示

海獣類の展示・飼育・繁殖・育成に関する研究を継承し推進する。イルカ・アシカオーシャンライブでは、お客様に満足していただけるよう、新しい種目の開発や季節や月毎に内容を替える会場創り、迫力のある映像等を活かした演出など、特別感のあるオーシャンライブを展開する。また、閑散期には、能力公開や生態解説、泳ぎ方など、普段とは違った方向から観るオーシャンライブ「レクチャー型ライブ」を取り入れていく。

イルカの繁殖については、人工授精等の研究調査を進めながら繁殖の成功に努める。

カリフォルニアアシカについても、計画を立て安定的な繁殖を目指す。また、フンボルトペンギンについては、昨年度1羽の繁殖と、他園館と生体個体の交換移動が実施できたため、種の多様性維持に努めながら繁殖を推進する。また、エトピリカについても、昨年度4羽の繁殖に成功していることから、他園館との生体個体の交換や生体個体の貸し出し（ブリーディングローン）などを積極的に行っていく。

エトピリカ、フンボルトペンギン、カピバラ、カリフォルニアアシカの給餌解説については、お客様にわかりやすいよう、工夫を凝らして実施する。なお、ペンギンのお散歩については、鳥インフルエンザに関する情報収集を密にして、対応マニュアルに沿って随時適切に対応する。

新規搬入動物については、ミナミアメリカオットセイ（雄1，雌1）を5月中旬に搬入、7月中旬に展示予定である。

ゴマフアザラシ及びカマイルカについては、導入を目指し調査を継続して情報収集に努める。

保護・調査研究については、関係機関との連携を図りながら茨城県沿岸へのストランディング調査活動を引き続き推進する。また、茨城県県北家畜保健衛生所の協力により実施している、展示動物の病性鑑定検査や飼育環境の調査で得られる知見からの共同研究を継続する。

ウ 自然博物館水系展示水槽管理受託事業

ミュージアムパーク茨城県自然博物館から委託を受けた水系展示水槽の適切な管理を行うとともに、展示用生物の収集をはじめ、各種展示解説や企画展での水槽展示、維持管理を実施する。

(3) 教育普及事業

生物や環境等について、誰もが気軽に楽しみながら学ぶことができる活動を展開するため、展示物及び設備や人材の活用を図り、館内外で発見体験学習、レクチャー・展示解説等の活動を進めるとともに、内容については常に見直しを図る。

また、ホームページや機関誌を通して水族館に関連した各種情報の提供に努めるとともに、学校等からの要請により自然観察会や講演会等への講師派遣のほか、移動教室を実施する。

さらに、教育機関からの実習、職場体験学習や各種団体の研修の受入れを行うとともに、生涯学習施設としてボランティア活動支援を行う。

ア 発見体験学習の実施

生き物や自然環境、水族館に対する理解を促すため「自然体験塾」や「さかなの絵コンクール」等の事業を実施する。自然体験塾については、人気のある水族館ナイトキャンプを5回実施するほか、講座の見直しを反映させた新講座、「イルカトレーニングの秘密」「ペンギン飼育体験」「親子で水族館をつくろう」、世界湖沼会議に合わせた「潤沼の生き物観察」等を実施する。また、大人向けの講座「マスタースクール」を合計4回開催する。

(発見体験学習内容)

名 称	内 容	期 間
(1) 自然体験塾	実験観察室での生き物観察や工作、野外での自然観察会等、生き物や自然に関する講座を17テーマ、延べ24回実施。	通 年
(2) マスター スクール	大人向けのコース。生き物の生態や特徴の解説及びサメの解剖、海獣やマンボウのひみつに迫る体験などの講座を年間4回実施。	6・9・12・2月
(3) さかなの絵 コンクール	入館者(小学生)を対象に、展示生物を写生する機会を提供し作品展と表彰式を開催。写生会は土曜・日曜で延べ4回実施。	10月

(4) 絵てがみ展	旬の食べ物や行事、花や生き物等、季節や自然をテーマにした作品展の開催。毎月優秀作品を選考して館内に展示。	通 年
-----------	--	-----

イ レクチャー及び展示解説の実施

展示生物や自然環境に対する理解を深めてもらうための解説サービスとして、なるほど魚っちんぐ（お魚発見教室レクチャー）、アクアウォッチング（水中対話解説）、お食事タイム（給餌解説）及び水族館探検ツアー（バックヤード案内）等の各種プログラムを実施する。

また、解説員の業務管理や指導、類似施設研修等を実施し、お客様に分かりやすい解説を行い、生物の情報とともに、多くの方に「学べるプログラム」を提供する。

館内が混雑するゴールデンウィークやお盆を含む夏季期間には、水族館探検ツアーに代わり「バックヤードウォーク」を実施する。

ウ コンピューター情報運用管理

館内の情報端末やホームページ上において、展示生物トピックス情報や環境保全、水族館の機能や役割等に関するの情報発信について管理を行う。ホームページについては、コンテンツ検索利便性向上のため、随時新たな情報の更新に努める。

また、ホームページのアクセス解析により閲覧者の動向分析やPR効果を評価し、さらに有効な広報媒体作りに活用する。

コンピューターシステム管理については、システム端末等において散発的に発生した動作不良等の各種不具合解消を図り、安全かつ安定した運用に努める。その他、コンピューター機器や解説ソフトの更新計画について検討を行う。

新規にWeb応募フォームを作成し、イベント等の応募に活用し、業務の効率化とサービスの向上に努める。

エ ボランティア活動支援

大洗水族館で活動しているボランティアグループ「マンボラクラブ」の支援を行う。また、年間をとおして募集・研修を行うとともに、毎月1回役員会を開催し、要望の集約、活動課題、研修計画等の検討・整理を進める。このほか、6月に総会・研修会、10月に他園館との交流研修会、11月に活動発表会「マンボラフェスタ」を開催する。

オ 機関誌「Sea遊」の発行

水生生物等への理解促進、水族館のイメージアップ等を目的に、展示生物の興味深い生態やトピックス等、様々な情報を紹介する機関誌を年2回発行し、国内の動物園・水族館や県内の教育機関及び栃木県の小中学校等、群馬県、千葉県、埼玉県の一部の小中学校に配布する。

カ 企画展の開催

常設展では表現できないテーマを取り上げて、生き物や自然環境についての理解を促進するため、下記の企画展の開催及び参加体験型の付帯事業を行う。

(企画展の内容)

名 称	内 容	開催期間
第26回企画展 「毒・ラボ ～こちら大洗 海洋毒生物研究所～」	海洋生物の毒に注目し、毒に対するイメージを“単なる恐怖”から“深い興味”へと転換する事を目的とし、生体展示を通して、その毒と係わる生き物たちを紹介する。	平成30年1月13日 ～5月6日
第27回企画展 「食」から見る海洋生物 (仮称)	「食」をテーマに、特に茨城県周辺で獲れる魚介類にスポットを当て、養殖や調査・研究にいたる水産県・茨城をアピールする事を目的とし、その魅力を紹介する。	平成31年2月中旬 ～5月6日(予定)

キ 海の生き物科学館及びお魚発見教室展示機器等の運用管理

各アイテムの適正な展示機能を確保するため、随時、生物資料の補充や散発的に発生した動作不良等の各種不具合の迅速な解消に努める。

お魚発見教室のタッチングプールの改修については、不具合の課題及び利用者の利便性を考慮して進めていく。また、遊具(キッズランド)については、利用者の安全第一を考えた運用管理を実施する。

ク 自然教室等への講師派遣

教育機関等の各種要請に応じ、水生生物や環境等をテーマとして、自然観察会・移動教室等の各種館外活動を行う。

ケ 研修会等の受入れ

教育機関や関連団体等からの研修会等の依頼に応じ、テーマに沿った飼育員等の講師派遣や、バックヤード及び夜の水族館等の案内対応を行う。

コ 実習生の受入れ

社会教育施設、博物館相当施設としての役割を果たすため、学芸員・飼育実習・職場体験学習・インターンシップ等の受入れを行う。

(4) 誘客促進事業

圏央道をはじめとする広域的な道路整備により、さらに近くなった首都圏を意識して、情報発信と各種キャンペーンにより集客を図っていく。また、団体誘客として、大手観光業者と連携し、閑散期団体向けに特典を設ける新たな試みを実施するほか、観光業者への訪問営

業を継続していく。

割引券の配布においては、道の駅等集客施設を積極的に訪問し、割引券の回収分析の細分化を図りながら、対象施設等の見直しを進め、個人客の増加も図っていく。あわせて、SNSの活用や様々なWebサイトへの広告をとおして、来館の可能性が高い地域や年代の把握に努め、今後の誘客対象地域の選定に生かしていく。

さらに、つくばエクスプレス及びバス広告など各種広報により情報発信を行い、誘客促進に繋げていく。

夏の特別企画のテーマを「とぶ」に設定して、鳥や昆虫類等の生体や標本の展示を中心に、とぶ能力を持った多種多様な動物たちの特殊な生態を紹介する。

また、閑散期には、昨年度に実施した「ウィンターワンダー☆イルミネーション」を基本とし、インタラクティブシステムによる体感型のコーナーを企画展示室に設置するなど、昨年度より発展させた話題性ある展示企画を実施する。

(催事計画)

催 事 名	期 間
GWイベント2018	4/28 ～5/6 GW期間 延長営業有
七夕イベント ・七夕水槽・連携願い事短冊・館内装飾	6/1～7/7
第43回 動物愛護標語コンクール	7/1～31
夏の特別企画「とぶ」(仮称) ・フクロウやワシなど鳥類や昆虫類の生体や剥製を中心とした展示	7/14～9/17 延長営業有
夜の水族館サマーナイト「延長営業」<那珂湊花火>	8/8 予定 延長営業有
ハロウィンイベント2018 ・ハロウィン仮装デー・特設水槽他	9/22～10/31
年間パスポート所持者限定プレゼント	11/1～11/30
A-1グランプリ～人気生物No.1決定戦	11/1～11/30
アクアワールドクリスマス2018 ・サンタの家、チャレンジゲーム他	11/17～12/25
閑散期対策企画 ・ウィンターワンダー☆イルミネーション及びインタラクティブシステム	12/8～2/14
年末・年始イベント ・書初め大会・干支水槽他	12/28～1/14
開館17周年 アクアワールド☆感謝祭2019	2/23～4/7

(5) 管理運営部門

ア 利用状況及び売上状況等各種データの分析を行うとともに、経営調整会議・販売戦略会議・マーケットプレイス連絡会議を定期的に開催するなど、経営状況を随時把握し安定経営に努める。

イ 事務事業の効率化を図るとともに、省エネルギー推進委員会の開催により、更なる省エネ化に積極的に取り組むなど、経費の節減を図りながら、効率的な予算執行に努める。

ウ 県有財産である大洗水族館を都市公園法に基づき管理するにあたり、腐食や老朽化による施設設備の修繕箇所増加に対応するため、積立資産を有効に活用して安全かつ清潔な施設管理を行う。なお、大型工事については、修繕計画に基づき、自動火災報知設備更新（煙感知器）やフードコートパッケージエアコン更新などを行う。

エ 職員の資質向上と効率的運営に資するため、語学研修等を行い入場者へのサービス向上に努めるほか、ストレスチェックや毎月の衛生委員会の開催により、メンタルヘルスケア対策支援の充実を図る。

オ 消防訓練、地震や津波を想定した避難訓練をはじめ、AED救急救命講習、個人情報保護やマイナンバーの入力管理の徹底など、コンプライアンスを遵守し、職員の危機管理意識や危機対応能力の向上を図る。

カ 繁忙期の駐車場確保対策として、大洗第4埠頭の借上げ及びシャトルバスの運行に加え、隣接する大洗公園駐車場の弾力的な借上げ運用により、駐車場の確保と周辺道路の渋滞緩和に努める。

キ 生物飼料の残滓リサイクル実験における分析結果を踏まえ、製造された残滓肥料について、再資源化に向けた周知を行うとともに、花木及び農産物生産を行う専門機関に配布することで有効活用を図る。

5 収益事業2（水族館売店事業）

売店の運営

地域に貢献する観光拠点施設としての役割を踏まえ、マーケットプレイスの物販部門及び館内のコーヒーショップ、ミュージアムショップの運営を行う。ホームページを活用した商品の告知、館内マップを利用した商品案内などにより、収入の確保に努める。

ア マーケットプレイス物販部門「モラモラ」の運営

オリジナルキャラクターのピルル・ブルルをはじめとするオリジナル商品の販売促進に努めるとともに、企画展イベントとタイアップした関連商品の販売を行い、売上げ増に努

める。また、利用者の購買意欲を高めるため、季節に応じた店舗内装飾を行うなど利用率の向上を図る。

イ コーヒーショップ「マーメイドギャラリー」の運営

オリジナル商品のシャークナゲットや鮫カレーをはじめ、企画展イベントに合わせたメニュー、季節等に合わせた限定商品の販売を行い、収益確保に努める。

ウ ミュージアムショップ「ガレオス」の運営

ショップ名の由来であるサメを意識した商品や、専門性のある商品を充実させてモラモラとの差別化を図る。また、店舗什器照明をLEDに変更し、省エネで環境にやさしい店舗づくりに取り組む。